

## 各課の指導のポイント

### 【聞き取り練習の前に】

#### ■ウォーミングアップ

各課で取り上げている会話場面で、これまでに学習者がどのような言語行動を取ったのかについて、その経験を話し合います。特に、失敗した場合や相手の意図がはっきりわからなかった場合などを中心に話し合うと、そのとき何が問題だったのかを明確にすることができます。

ここでの話し合いで取り上げられた項目を黒板に板書しておき、ロールプレイの際に同じような場面を設定すれば、学習者が自らの経験をふりかえり、同様の場面でどう話せばよいかを学習した表現を使って練習することができます。

#### ■こんなとき、どう言いますか

ここでは、それぞれの課で学ぶ表現のうち、初級や初中級の段階で既習であると考えられる表現を取りあげています。それらの表現について十分理解できているかどうかを確認してください。

### 【聞き取り練習のポイント】

#### ■ 聞き取り練習 I

##### [問題 1]

文末表現などをヒントに、話している人たちの人間関係（上下や親疎）、話の内容、話されている場所などを聞き取る問題です。

##### [キーワードとなる単語]

ここに挙げてある単語は、スキットの内容を聞き取るための、キーワードとなる単語です。いわゆる難易度の高い単語ではありません。これらのキーワードとなる単語が聞き取れれば、大まかな内容が把握できるでしょう。それでも足りない場合は必要な単語を適宜補充してください。

別冊には、単語の中国語、韓国語、英語、ポルトガル語訳がついています。これらは、単語の直訳ではなく、文脈にそった訳となっています。

##### [問題 2]

話の結果（大まかな内容）について聞き取る問題です。どの発話に注目すればいいかは、各課で詳しく取り上げていますので、ご参照ください。教室では、どの発話が判断のポイントとなるのかについて学習者に質問し、確認してもいいでしょう。

### 【問題3】

話の細かい内容について、正確に聞き取れたかどうかを確認する問題です。内容を理解していない場合は、キーワードとして挙げてある単語以外に、難しいと思われる単語を適宜補充してください。また、学習者が問題2をほとんど理解できているようなら、スキットを聞かずに、続けて問題3を確認してもいいでしょう。(第1課には、この種の問題はありません。)

### 【問題4】

会話の参加者の関係、会話の場面、トピックにより、適切な表現が異なることを考えるための問題です。トラックナンバーの箇所を再生して表現を確認することができます。答えを書く欄がありますが、表現を全て書き取らなければならないわけではありません。口頭での確認だけでもいいでしょう。各課の指導ポイントには、「他の表現例」も挙げてありますので、ご参照ください。

#### \*教室での使い方\*

問題2～4は、それぞれの問題についてスキット1～5を続けて聞いて問題を解くという方法と、ひとつのスキットを聞いて問題2～4を同時に考えるという方法があります。これらの方法でも問題を解くのが難しいレベルの学習者の場合、一問ごとに、ひとつのスキットを聞いて、答えを確認する方法を取るほうがいいでしょう。

## ■聞き取り練習Ⅱ

ここでは、課の機能に関わる出来事を、第三者に経験や意見として語っている話の聞き取りを行ないます。聞き取り練習Ⅱでは、内容についての聞き取りだけではなく、話し手の意図や感情について考える問いや、聞き手が後にとるべき行動を学習者に考えさせる問いも加えました。話している人の意図や感情を正しく理解する力と、自分が話し手となったときに自分の気持ちを正確に伝えることのできる力をつけるための設問が用意されています。

### 【キーワードとなる単語】

聞き取り練習Ⅰと同様、ここに挙げてある単語は、スキットの内容を聞き取るための、キーワードとなる単語です。いわゆる難易度の高い単語ではありません。キーワードを確認しても大まかな内容理解ができなかった場合は、必要な単語を適宜補充してください。

別冊には、中国語、韓国語、英語、ポルトガル語訳がついています。これらは、単語の直訳ではなく文脈にそった訳となっています。

## ■ポイントリスニング

単文レベルの聞き取りタスクです。イントネーションの違いや表現の細かな違いによって意味が異なるものを中心に、特定の機能表現を聞き取る練習を行います。

### 【重要表現のポイント】

各課について3～4の機能表現を扱います。それぞれの表現についての補足説明は各課の指導のポイントをご参照ください。

また、重要表現中の設問の解答例が各課の指導のポイントに載せてありますので、あわせてご覧ください。

### 【ロールプレイのポイント】

ロールプレイの際には、タスクが達成できたことや正しい表現が用いられていたかに注目するだけでなく、適切な話の進め方ができていたかどうかについても、クラスで話し合う時間を持ったほうがいいでしょう。

## ■CD を活用した会話練習例

スキットを途中まで聞かせ、会話の状況を確認した後、スキットの続きの会話を作り上げるといった練習を2種類提示しています。設問①と②は、「次のような状況であなたはこの会話の続きとして何を言うか」という状況を提示するためのものです。したがって、スキットの続きを忠実に再現する必要もありませんし、結末がスキットと同じである必要もありません。

また、男性話者が話している会話の続きであっても、学習者が女性の場合は、スキットの前半を女性が話していると仮定して、話の続きを作ってみてください。あくまで状況を提示するための設問ですので、学習者に合わせて調整してください。

## ■ロールプレイタスク

設問③では、カジュアルな場面とフォーマルな場面のロールプレイを提示しています。これをそのまま使う必要はありません。学習者が実際に遭遇するような場面に修正して、練習してください。また、聞き取り練習の前にクラスで話し合った状況でロールプレイをしたり、学習者に状況を提案してもらったりしてもいいでしょう。ロールプレイのタスク例が各課の指導のポイントに提示してありますので、参考にしてください。

本冊 p.6 には、リスニングに重点をおいた場合、スピーキングに重点をおいた場合など、本書の目的別の使い方についてヒントが書かれていますので、参考にしてください。

## 第3課「これ、使わせてもらってもいいかなって」－許可－

### 【この課で学習する内容】

第3課では、許可を求める場面の会話について学習します。許可を求める表現の「～でもいいですか」「～させていただけますか」などは、初級の学習者にとってもなじみ深い表現です。しかし、教師や上司など目上の人に対しては「～させていただけますか」を用い、それ以外は「～でもいいですか」を用いるというように、使い分けのルールを単純化してとらえている学習者もいます。この課では、許可を得たい内容によって、言い方を変えることや、婉曲的に許可を求める、条件つきで許可を与える、などの表現を学びます。

### 【聞き取り練習の前に】

#### ■最近、どんなことで許可を求めましたか。うまく許可をもらえましたか。

どんなことで許可を求めたか、その結果がどうだったかという許可にまつわる経験についてクラスで話し合います。特に、失敗した場合や、相手が許可をしてくれたかどうか、はっきりわからなかった場合など、問題があったものを中心に話し合ってください。

#### ■こんなとき、どう言いますか

ここでは、「依頼」と「許可」の違いを中心に確認します。

	依頼する	許可を求める
誰が	行為をするのは「聞き手」。するかどうかを決めるのも「聞き手」。	行為をするのは「話し手」。するかどうかを決めるのは「聞き手」。
既習の表現	～て。 ～てもらえませんか。 ～ていただけますか。	～でもいい／かまわないですか。 ～こと（が）できますか。 ～せてもらってもいいですか。 ～せていただけますか。

### 【聞き取り練習のポイント】

#### ■ 聞き取り練習 I

【問題1】 聞き取りのポイント

- ③ ここは、スキット1、2のように人間関係が明確にわかる呼び方をしていません（「山根さん」）が、「明日の会議」「大阪支社」などから、職場での話であることがわかります。そして、2人の話し方がどちらも普通体であることから、親しい同僚同士であることがわかります。
- ⑤ このスキットも人間関係を明らかにする呼び方をしていませんが、「この本、今日が返却日になってるんですけど、続けて借りるっていうのは、可能ですか。」と言って

## ◆ 著者紹介 ◆

### 梶本 総子(すぎもと ふさこ)

大阪外国語大学大学院言語社会研究科博士後期課程修了、博士(言語・文化学)

現在、筑波大学留学生センター 非常勤講師

著書に、『聞いて覚える話し方 日本語生中継 中～上級編』(くろしお出版・共著)、『聞いて覚える話し方 日本語生中継 中～上級編 教師用マニュアル』(くろしお出版・共著)、『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編1』(くろしお出版・共著)、『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編1 教室活動のヒント&タスク』(くろしお出版・共著)、『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編2』(くろしお出版・共著)、『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編2 教室活動のヒント&タスク』(くろしお出版・共著)、『生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語』(The Japan Times・共著)がある。

### 宮谷 敦美(みやたに あつみ)

大阪外国語大学大学院外国語学研究科日本語学専攻修了、修士(言語・文化学)

現在、愛知県立大学外国語学部 准教授

著書に、『聞いて覚える話し方 日本語生中継 中～上級編』(くろしお出版・共著)、『聞いて覚える話し方 日本語生中継 中～上級編 教師用マニュアル』(くろしお出版・共著)、『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編1』(くろしお出版・共著)、『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編1 教室活動のヒント&タスク』(くろしお出版・共著)、『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編2』(くろしお出版・共著)、『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編2 教室活動のヒント&タスク』(くろしお出版・共著)、『生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語』(The Japan Times・共著)がある。

聞いて覚える話し方 日本語生中継 ◆ 梶本総子・宮谷敦美 [著]  
中～上級編 教師用マニュアル

2004年 3月25日 (第1刷発行)

2007年 12月28日 (第3刷発行)

発行 くろしお出版

〒112-0002  
東京都文京区小石川 3-16-5  
TEL (03)-5684-3389  
FAX (03)-5684-4762  
e-mail kurosio@9640.jp  
web http://www.9640.jp

印刷 藤原印刷

イラスト アサモ

装丁 mariposa

© SUGIMOTO Fusako, MIYATANI Atsumi 2004, Printed in Japan

ISBN978-4-87424-299-5 C2081

●乱丁・落丁はおとりかえいたします。無断複製を禁じます●

# 著作権保護コンテンツ